

教師支援サイトの再構築

－ 「JF 日本語教育スタンダードサイト」「みんなの Can-do サイト」
「みんなの教材サイト」連携の試み－

伊藤由希子・長坂水晶・上原由美子

1. はじめに

2018年5月、国際交流基金日本語国際センターが運営する「JF 日本語教育スタンダードサイト <https://jfstandard.jp>」(以下、JFS サイト)、「みんなの Can-do サイト <https://jfstandard.jp/cando/>」(以下、Can-do サイト)、「みんなの教材サイト <https://minnanokyozaai.jp>」(以下、教材サイト)が、同時に全面リニューアルされた。これら3つのサイト(以下、3サイト)の再構築の目的は、ユーザーのニーズに合わせ、それぞれのサイトをより使いやすく便利なサイトにするとともに、JF 日本語教育スタンダード(以下、JFS)が提案する、課題遂行能力を育成するための授業実践を支援することである。本稿では、これらの目的を達成するため、再構築で何を重視し、どう実現したのかを報告する。

2. 再構築の背景

2.1 JFS と3サイト

JFS は、機関や地域を越え、学習者・教授者・コース提供者らが共有できる日本語教育の枠組みとして、2010年に公開された。JFS は、「課題遂行能力」と「異文化理解能力」の育成を通して相互理解を深める日本語教育実践を支えることを目指すものである。日本語の熟達度を CEFR (Council of Europe 2008) と同じレベル基準で示し、現実場面での具体的なコミュニケーション言語活動を表す Can-do を学習目標に設定することと、言語に関する知識ではなく、Can-do が達成できたかどうかを評価することを提案している(国際交流基金 2017)。

JFS サイトでは、コミュニケーション能力の育成を目指す教師が JFS を便利に活用できるよう、JFS の解説、Can-do による学習目標設定やコースシラバス策定の実践例など、教育現場で活用した事例を掲載してきた。

また Can-do サイトは、現実場面での課題遂行を学習目標に設定し、評価と学習内容に一貫性を持たせた実践をサポートするため、CEFR のレベル尺度による Can-do を提供するデータベースとして公開された。Can-do サイトでは、CEFR Can-do と、国際交流基金が独自に作成した JF Can-do⁽¹⁾の検索や、保存・編集ができ、Can-do の活用を促進してきた(押尾ほか 2013)。

一方、教材サイトは、海外の日本語教材開発支援の一環として、2002年に国際交流基金日本語国際センターが公開した素材提供型サイトである。学習者の多様化や技術の発達を背景に、「世界のいかなる地域の日本語教師でも容易に活用できること」「著作権許諾の手続きを必要とせず、自由に活用できる日本語教育用素材を提供すること」「利用者が素材・情報を受容するだけでなく発信もできる双方向性を確保すること」「教材に関する日本語教師間の相互交流を促進させ、教師の専門性発達に寄与すること」という4つの基本方針をもとに開発された(島田ほか 2003:7)。2008年には、素材の追加拡充、素材検索の利便性の向上、コミュニティ機能の拡充を重点としたリニューアルが実施されており(赤澤ほか 2009)、今回が2度目の大規模リニューアルとなる。今回のリニューアル前の2018年2月時点での主なコンテンツは、教室活動用素材、イラスト、写真、読解素材、教師用の文法解説、ユーザーが自作の教材を投稿できるコーナー「みんなの広場」であった。

2.2 サイトへの要望と教師のニーズ

3サイトの公開以来、国内外の日本語教師であるユーザーから寄せられてきた要望と問題点をまとめる。

(1) JFS サイトと Can-do サイト

JFS サイトに多く寄せられてきた声は、「JFS とは何かがわかりにくい」「JFS の活用方法がわからない」といったものである。また、JFS の基礎資料や活用事例の充実が望まれながらも、それらがサイトのどこにあるのかがわかりにくい点も指摘されてきた。つまり JFS はコミュニケーションを重視した教育を提案してきたものの、現場に役立つ資料が JFS サイト上でうまく提供されていなかった、ということができる。

また、Can-do サイトに関しては、2014年から2017年にかけて、国際交流基金日本語国際センターの専任講師、JF 日本語講座⁽²⁾の講師、派遣専門家⁽³⁾らにアンケートとインタビュー(計23名)を実施したところ、「検索しても必要な Can-do が見つからない」「Can-do に番号を付与してほしい」「キーワードとレベルで同時に検索をしたい」といった意見が出された。検索結果画面には、「絞り込み検索ができるとうい」「JF Can-do と CEFR Can-do の関係がわかるように表示してほしい」「Can-do の保存やダウンロードが簡単にできるようにしてほしい」「ほかのユーザーの Can-do フォルダが見られるようにしてほしい」といった意見が出された。

(2) 教材サイト

教材サイトに関しては、ユーザーアンケート⁽⁴⁾(2015年度および2016年度分 計291件)、および国際交流基金日本語国際センターで研修中の研修参加者⁽⁵⁾へのアンケート(116名)と聞き取り調査(10名)を行い、サイトへの意見や要望などを聞いた。また、ユーザーの意見のほ

かに、教材サイトが主な対象としている海外の日本語教師が抱える課題を調べるため、日本語国際センターの「長期研修」⁶⁾の研修参加者50名が書いた作文の分析を行った。この作文は、研修応募時に書かれた400字程度のものであり、そこから彼らが自分の教授活動で困っていること、課題だと捉えていることを抽出した（伊藤ほか 2018）。以上の結果わかったことは、以下のようにまとめられる。

A. サイトへの意見・要望

- ・サイトが使いにくい（素材が探しにくい、速度が遅い等）
- ・素材が古い、種類が少ない（動画、新しい写真、中上級用教材、コミュニケーション能力や日本語運用力を重視した、新しい教え方に役立つ素材が欲しい等）
- ・日本語教育に関する情報や知識が欲しい（授業でそのまま使える素材だけでなく、授業の幅を広げるための情報や、新しい教授法の知識等も欲しい）
- ・無料で利用できる一般的なイラスト、写真、動画などはネット上で入手できるものの、日本語教育の現場で活用しやすい素材が豊富にあるとは言えない。教材サイトには、文化理解や日本語の授業に役立つものなど、ほかのサイトでは扱っていない素材を提供してほしい

B. 対象ユーザー層が抱える課題

- ・自信を持って教えられるようになりたい（日本語運用力、教授法知識について）
- ・学習者の質問に答えられるようになりたい（日本語および、日本文化・社会について）
- ・楽しい授業、おもしろい授業、学習者が興味を持てる授業がしたい

3. 再構築の目的

2章で挙げた、サイトの問題やユーザーからの要望、教師が抱える課題をもとに、3サイト再構築の目的を以下のように定めた。

- (1) ユーザーにとって、使いやすく便利なサイトにする
- (2) 課題遂行能力を育成するための授業実践を支援すること

目的(1)を達成するには、JFS サイトでは情報の整理を行うこと、Can-do サイトでは検索機能や検索結果画面の改善を行うこと、教材サイトでは検索の向上や新規素材の追加を行うことが必要だと考えた。

また、目的(2)を達成するために、課題遂行つまり Can-do の達成を目指した授業デザインや教材作成の具体例、Can-do が示す具体的な会話や文章の例を提供することにした。これは2章で述べた教師のニーズ、すなわち「日本語教育に関する情報や知識が欲しい」「コミュニケーション能力を重視した授業がしたい」「学習者が興味を持てる授業がしたい」という声にも応えることになる。現場の教師が Can-do を活用して授業や評価を行うには、具体例のほかに、Can-do にリンク付けされた文法や語彙などの言語材料が必要であるが（投野 2017）、日本語

には学習者コーパスにもとづいたレベル別の言語項目リストがまだ存在しない。そのため、教材サイトにある教室活動例、文章や会話の例を Can-do と結びつけて提示することにした。教師はそれを参考にして、学習者に合わせて必要な言語材料を用意したり、Can-do にもとづく文章や会話文を作成したりできると考えた。

次の4章では各サイトの再構築における改修の詳細を報告し、5章で3サイトの連携について述べる。

4. 再構築の内容

4.1 JFS サイト

JFS がどのようなものか
が理解しやすく、また JFS
の活用において参考になる情
報が十分に得られるサイトに
改修するため、サイトのどこ
にどんな情報があるのかをわ
かりやすく整理するとともに、
JFS の説明や提供する情報
の見直しを行った。主な改修
点を以下に挙げる。



図1 JFS サイト トップページ

(1) わかりやすい情報をわかりやすく配置

JFS とは何か、どのように活用できるのかを無理なく理解できるよう、JFS についての簡潔な説明を新たに掲載した。また、ユーザーが欲しい情報をすぐに見つけられるように、JFS のガイドブックやパンフレットなどの資料を、「JF スタンダードを利用したい」「レベルの基準が知りたい」「Can-do 一覧表が見たい」「ロールプレイトストを利用したい」「日本語能力試験 (JLPT) との連関が知りたい」「概要紹介のパンフレットが見たい」「理念・開発過程が知りたい」の7つのニーズに分類して掲載した。

JFS の開発において参考にされた CEFR についても簡単に紹介し、JFS との関係性や、JFS の理念の理解につながるようにした。

(2) JFS 活用事例の充実と整理

課題遂行能力を育成するための授業実践に役立つよう、JFS を活用する際に参考になるレポートや論文を充実させた。「コースデザイン」「授業のデザイン・工夫」「評価」「ポートフォリオ」「異文化理解」「教材作成」「アーティキュレーション」「『まるごと 日本のことばと文化』を使った実践」「JF スタンダードに関する論文・解説・紹介セミナー他」の9つのカテ

ゴリーに分類し、各レポート・論文に簡単な要旨をつけ、ユーザーが探しやすい形で掲載した。また、この中から、とくにわかりやすいもの、ユーザーの参考になりそうなものを、トップページでも紹介するスペースを設けた。

4.2 Can-do サイト

より検索しやすく、また Can-do の理解や活用に役立つ情報を提供するサイトを目指し、主に以下の改修を行った。

(1) 完全ユーザー登録制の廃止

旧サイトでは、Can-do サイトを使うにはユーザー登録が必須であり、ログインするたびに ID とパスワードを入力しなければならなかった。今回、ユーザーの利便性を考慮し、ユーザー登録なしで Can-do の検索と検索結果のダウンロード、そして Can-do に関する情報閲覧を可能にした。

(2) 検索画面および検索結果画面の改善

見やすく検索しやすい検索画面にするため、色や配置など、デザインを一新した。具体的には、各カテゴリーが「受容」「やりとり」「産出」のどれに関連するのかをわかりやすく表示したほか、それぞれのカテゴリーに C (CEFR Can-do) と J (JF Can-do) の文字を付し、CEFR Can-do と JF Can-do の分布が一目でわかるよう配慮した。機能面では、キーワード検索と条件検索を併用可能にしたほか、Can-do 一つ一つに整理番号としての整番を付与し、整番で検索ができるようにした。

検索結果画面は、全体が見渡せるよう、Can-do の種別、整番、レベル、種類、カテゴリー、本文、参考情報、「関連 Can-do」の表示ボタン、「同じカテゴリーの Can-do」の表示ボタンを横一列に収まるよう配置した。検索結果画面から



図2 Can-do サイト 検索結果画面

直接「同じカテゴリーの Can-do」と「関連 Can-do」を表示できるようにすることで、関連する Can-do の活用が促進されることを期待した。とくに「関連 Can-do」は、CEFR Can-do と JF Can-do との区別や、両者の関係性がわかるように表示を工夫した。また、サイドバーには簡易検索画面を設置して、検索結果の微調整ができるようにし、さらに検索結果をそのままログインなしで出力可能にした。

(3) 言語活動例の提示

3章で述べたように、Can-do を活用した授業デザインや教材作成のヒントとなるよう、また Can-do に記述されている言語活動やレベルを具体的に理解できるよう、一部の JF Can-do に、その Can-do の言語活動例となる文章や会話、タスクに関する情報を表示した。

選択	種別 番号	レベル	種類	言語活動	カテゴリー	第一 トピック	Can-do 本文	参考情報	関連 Can-do	同じ カテゴリー
<input type="checkbox"/>	JF JF442	A2	活動	やりとり	手紙やメールのやりとりをする	人との関係	お世話になった人に、短い簡単な文でお礼の手紙やメールなどを書くことができる。	教材サイト 教室活動	開く	開く
<input type="checkbox"/>	JF JF527	A2	活動	やりとり	手紙やメールのやりとりをする	自分と家族	サイトに載せられた名前や趣味などの自己紹介に対して、感想や質問などを短い簡単な文で書き込むことができる。	JFまるごと 初級1 A2 かつどう編 Can-do5	開く	開く
<input type="checkbox"/>	JF JF528	A2	活動	やりとり	手紙やメールのやりとりをする	人との関係	結婚する友人へのメッセージカードや寄せ書きなどに、短い簡単な文で、お祝いの気持ちを表すメッセージを書くことができる。	JFまるごと 初級1 A2 かつどう編 Can-do52	開く	開く

図3 Can-do サイト 検索結果画面の「参考情報」

言語活動例としたのは、① JFS 準拠コースブック『まるごと 日本のことばと文化』の会話や文章、タスク、② JFS サイトにある『JF 日本語教育スタンダード準拠ロールプレイトテスター用マニュアル』のガイドライン、③ JF Can-do で目標設定された教材サイトの教室活動、読解、授業案（後述の「JFS 授業案」）である。図3に示すように、検索結果の「参考情報」に、①については掲載されている本と Can-do 番号を表示し、②と③は対象のページにリンク付けをした。そして、このような言語活動例が見られる Can-do を「例示がある Can-do」として検索できるようにした⁷⁾。

4.3 教材サイト

素材を探しやすくすること、そして素材をより充実させることを主な目的として改修を進めた。とくに Can-do で目標設定された素材を充実させることによって、Can-do を利用した授業デザインや教材作成の例を示し、「コミュニケーション能力を重視した授業



図4 教材サイト「素材を探す」トップページ

がしたい」「新しい教え方が知りたい」といったユーザーの声に応えることを意図した（伊藤ほか 2018）。主な改修点は、以下のとおりである。

(1) 検索の改善

「トピックで探す」「文法・文型で探す」というページを設け、横断的に素材を探せるようにした。トピックベースで授業をデザインするユーザー向けの「トピックで探す」は、JFSの15のトピック別に、それぞれのトピックに関連する教室活動や読解、イラストなどの素材を一覧で表示した。また、文型ベースで授業をデザインするユーザー向けの「文法・文型で探す」は、文法・文型によって258の項目を立て、それぞれの文法・文型を授業で扱うときに利用できるような素材や、授業準備に役立つ教師向けの資料を一覧で表示した。

さらに、「欲しい素材がなかなか見つからない」という旧サイトの問題を改善するため、絞り込み検索の項目を見直し、従来の項目に「活動で使う技能」と「活動のトピック」⁽⁸⁾を加え、目的、技能、種類、レベル⁽⁹⁾、トピック、教材名の6つの項目を設定した。また、キーワード検索で条件に合う素材がより多くヒットするように、旧サイトから引き継いだ教室活動と読解計454点のタグを付け替え、イラストの一部922点にタグの追加を行った。

さらに、教材一覧が見られるサイドバーを設け、教材全体を把握して素材を探せるようにした。

(2) 素材の拡充

素材の充実を図るため、①新規素材を追加し、②国際交流基金が運営する他サイトのコンテンツを検索可能にした。①は、「みんなの広場」で連載してきた素材をシリーズ教材にまとめたものも含め、教室活動、読解、写真、イラスト、授業案に、計9種類150の新規素材を追加した。②は、「WEB版エリンが挑戦！にほんごできます。https://www.erin.ne.jp」および「まるごと+（まるごとプラス）http://marugotoweb.jp」の動画、「ひろがる もっといろんな日本と日本語 https://hirogaru-nihongo.jp」の動画と写真、「日本語教育通信 http://www.jpfgo.jp/j/project/japanese/teach/tsushin/」内の「授業のヒント」、「日本語の教え方 イロハ」、「文法を楽しく」の記事を、教材サイトで検索できるようにした。これにより、「動画を使って日本文化を紹介したい」「自信を持って教えられるよう、教え方に関する情報が欲しい」などの要望に応えられるようになった。

(3) Can-do で目標設定された素材の充実

Can-do を目標とする素材を充実させるため、①JFSの考え方を踏まえ作成された「JFS教材」を追加するとともに、②旧サイトから引き継いだ教室活動の一部に目標Can-doを設定し、「Can-doあり」素材として検索できるようにした。

①「JFS教材」には、2015年末から「みんなの広場」で連載してきた「A1活動集（読解）」と「A2活動集（読解）」⁽¹⁰⁾をシリーズ教材としてまとめた「JFS読解活動集」と、今回新しく追加された「JFS B2教材」、「JFS 授業案」の3種類がある。「JFS B2教材」は上級（B2レベル）学習者向けの多技能統合型教材である。ニーズが多様であるという上級学習者の特徴を

考慮し、そのままの形で使用するほか、各現場で授業をデザインする際の参考として役立つように工夫されている（大船ほか 2017）。一方、「JFS 授業案」は、Can-do を目標にした授業デザインに取り組むユーザーの参考になることを意図したもので、『A Core Inventory for General English』⁽⁴¹⁾に倣い、A1～B2の4つのレベルの、課題遂行を目標にした授業の流れを例示したものである。目標 Can-do、必要な言語項目や能力、利用できる教材、パフォーマンスタスクを含む活動の流れ、評価ルーブリックの例が提示されている。

②は、「教科書を作ろう」という初級活動集のうち、会話や文章の例、タスクのレベル、および文脈・内容を確認し、無理なく JF Can-do を目標に設定できる10の素材を対象とした。

(4) Can-do の活用促進

教材サイトユーザー向けに、JFS や Can-do について簡潔に説明したページ「JF 日本語教育スタンダードと Can-do について」を「このサイトについて」に設け、ユーザーが Can-do の理解を深め、Can-do で目標設定された素材を活用できるようにした。

また、Can-do で目標設定された素材の「目標 Can-do」には、Can-do サイトへのリンク付けをし、遷移先で目標 Can-do の「同じカテゴリーの Can-do」と「関連 Can-do」が見られるようにした。教材サイトユーザーが Can-do サイトに触れる機会となることを期待するとともに、関連のある Can-do を参照することによって、その目標 Can-do の内容やレベルの特徴について理解を深められること、目標 Can-do の達成に必要な能力を考える上での参考となることを意図した。

4.4 マイページの新設

Can-do サイトと教材サイトで共用のマイページを新設した。マイページには Can-do フォルダと教材フォルダを設け、Can-do サイトの Can-do や、教材サイトの素材を保存できるようにした。また、Can-do には素材を、素材には Can-do をひもつけて保存できる機能をつけ、メモの記入もできるようにした。Can-do を言語活動例となる素材とセットで保存したり、具体例となる会話や文章がサイト上であれば、その URL をメモ欄にリンク付けしたりするなどの活用方法を想定したものである。素材についても、活動



図5 マイページ 教材フォルダの利用例

の目標となる Can-do とセットで保存したり、授業での素材の使い方をメモしたりなどして活用されることを期待した。さらに、フォルダには公開機能をつけた。Can-do や素材をどのように利用しているのか、どのように両者をひもづけて活用しているのかをユーザー間で共有し、お互いに参考にすることを期待したためである。特定のグループの共同作業での利用を想定し、相手を限定した公開も可能にした。

5. 3サイトの連携

3章で述べたとおり、今回の再構築の目的の一つは、JFS が提案する、課題遂行能力を育成するための授業実践を支援することであった。この目的達成に大きく寄与したのは、4章で見てきたように、3サイトのさまざまな箇所をリンクさせたことである。図6に、3サイトの連携イメージを示す。

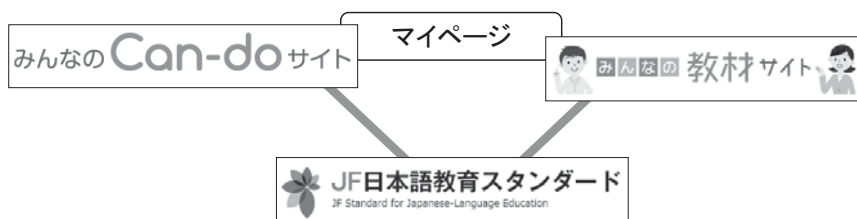


図6 3サイトの連携イメージ図

まず、教材サイトにある素材と、Can-do サイトにある Can-do をリンクさせることにより、両サイトのつながりができた。これにより、教材サイトのユーザーは、素材利用の際、リンク先の Can-do サイトで「同じカテゴリーの Can-do」や「関連 Can-do」を見て、「目標 Can-do」の言語活動やレベルを確認したり、評価の参考にしたりできる。一方、Can-do サイトのユーザーは、リンクされた教材サイトの素材を見ることで、Can-do の記述内容を具体的に理解することができる。Can-do サイトからは、JFS サイトの『JF 日本語教育スタンダード準拠ロールプレイトテスト用マニュアル』のガイドラインにも飛べ、会話やタスクの例を参照することができる。

また、JFS サイトの JFS の解説ページは、教材サイトにリンク付けがされた。これによって、JFS サイトのユーザーが、授業や教材への Can-do の活用例を見ることができるようになった。

このように、3つのサイトを連携させることで、JFS や Can-do を活用する目的で JFS サイトや Can-do サイトを訪れたユーザーが、解説を読むだけでなく、具体的な授業デザインや教材の例、また Can-do に記述された言語行動やレベルを形にした会話や文章、タスクの具体例を参照しながら活用方法を理解できるようになった。これは、ユーザーが JFS という枠組みを各教育現場の授業実践に落とし込むための、具体的な手がかりとなる。

教材サイトと Can-do サイトとは共用のマイページでもつながった。マイページでは、目標となる Can-do と教室活動案をまとめて管理できたり、Can-do を会話や文章の例と一緒に保存できたりすることによって、Can-do を活用したユーザーの授業実践をサポートすることが可能になった。さらに、フォルダに公開機能をつけたことにより、Can-do にかかわる、ユーザー間の学び合いや協働を促すことができる。

6. 今後の課題

今回のリニューアルは、それぞれのサイトをより使いやすく便利なサイトにするとともに、JFS が提案する、課題遂行能力を育成するための授業実践を支援することを目指して行われた。まずは、この目的が達成されたのかを確認することが課題である。とくに後者について、3サイトがつながったことによりどのような利用の変化があったのか、そして JFS や Can-do に対するユーザーの理解が深まったのかを把握する必要があるだろう。具体的には、教材サイトの Can-do で目標設定した素材がどのように利用されているのか、Can-do サイトの「例示がある Can-do」がどのように活用されているのか、調査が求められる。

今後もユーザーにとって、さらに使いやすく便利なサイトを目指し、サイトがどのように利用されているか、どのような支援が求められているのか、動向を把握する必要がある。また、より多くのユーザーに利用してもらえよう、サイト利用につながる仕掛けや情報提供を行っていくことが課題となるだろう。

〔注〕

- ⁽¹⁾ CEFR Can-do が汎言語的で抽象的な記述であるのに対して、JF Can-do は日本語の使用場面を想定し、具体的な言語活動を例示するものである。
- ⁽²⁾ 国際交流基金が海外拠点を中心に運営している日本語講座である。
- ⁽³⁾ 国際交流基金が海外に派遣する日本語専門家を指す。
- ⁽⁴⁾ サイト運営に活かすことを目的に毎年実施されているもの。
- ⁽⁵⁾ 国際交流基金日本語国際センターでは、海外のノンネイティブ日本語教師を主な対象とした研修事業を実施している。
- ⁽⁶⁾ 「長期研修」は、日本語教授年数の短い(6か月以上5年未満)若手のノンネイティブ日本語教師(36歳未満)を対象に、日本語運用力の向上、基礎的な日本語教授法の習得及び日本理解の深化を目的としている。
- ⁽⁷⁾ 『まるごと 日本のことばと文化』で言語活動例が見られる Can-do は、旧サイトでも「まるごと Can-do」として検索できたが、本のどこを見ればいいのかのわかりにくかったため、今回の再構築では、該当部分がすぐに見つけられるように、詳細な情報を掲載した。
- ⁽⁸⁾ JFS の15のトピックである。
- ⁽⁹⁾ 旧サイトで使用されていた「初級前半」「初級後半」「中級」「上級」に加え、A1～B2の各レベルでも検索が可能になった。
- ⁽¹⁰⁾ 「A1活動集(読解)」の内容と特徴については、以下に紹介されている。
「JF 日本語教育スタンダードに準拠した読解教材「A1活動集(読解)」と「A2活動集(読解)」

教師支援サイトの再構築

(「日本語教育通信 日本語教育ニュース

<http://www.jpfi.go.jp/project/japanese/teach/tsushin/news/201707.html>)

- ⁽¹⁾ British Council と EAQUALS (European Association for Quality Language Service) によって共同開発された資料で、CEFR の A1 から C1 までのレベルごとの学習内容と授業の流れが例示されている。目的は①教師とコースデザイン者の支援のために CEFR をわかりやすく提示する、②教授・計画プロセスをより透明に、③学習者の自律学習を支援する、の3点とされている。

〔参考文献〕

- 赤澤幸・高野千恵子・磯村一弘・三原龍志 (2009) 「日本語教師のための素材提供型サイト「みんなの教材サイト」の運用と再構築」『国際交流基金日本語教育紀要』5、119-134
- 伊藤由希子・上原由美子・長坂水晶 (2018) 「教師向け素材提供型サイトにおける課題遂行型授業実践への支援—「みんなの教材サイト」再構築での試み—」『2018年度日本語教育学会春季大会予稿集』、207-212
- 大船ちさと・篠崎摂子・清水まさ子 (2017) 「B2 (上級) レベルの課題遂行をめざした教材開発—新たな教材像模索の試み—」『2017年度日本語教育学会秋季大会予稿集』、402-407
- 押尾和美・磯村一弘・長坂水晶 (2013) 「JF 日本語教育スタンダードの Can-do データベース」『日本語学』3月号 第32巻第3号、44-56、明治書院
- 国際交流基金 (2017) 『JF 日本語教育スタンダード【新版】利用者のためのガイドブック』、国際交流基金
- 島田徳子・古川嘉子・麦谷真理子 (2003) 「インターネットを利用した日本語教師に対する教材制作支援—「みんなの教材サイト」<http://www.jpfi.go.jp/kyozai/>の構築と運用—」『国際交流基金日本語国際センター紀要』13、1-18
- 投野由紀夫 (2017) 「言語材料とのリンクが広げる Can-do の可能性」『英語教育』1月号 Vol. 65 No. 11、28-30
- Council of Europe (2008) 『外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』初版第2刷 吉島茂・大橋理枝 (訳、編)、朝日出版社
- Brian North, Angeles Ortega and Susan Sheehan (2015). *A Core Inventory for General English. 2nd ed.* British Council / EAQUALS (European Association for Quality Language Services)
<<https://englishagenda.britishcouncil.org/sites/default/files/attachments/pub-british-council-eaquals-core-inventoryv2.pdf>> (2018年12月21日)

